

【1】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

本当に小説の勉強をはじめたのは、二十六の時である。それまではA専ら劇を勉強していた。小説は殆んど見向きもしなかったようである。ドストイエフスキイやジイドや梶井基次郎などを読んだほかに、月月の文芸雑誌にどんな小説が発表されているかも良く知らなかった。その代り、戯曲は実によく読んだ。しかし、それも学者のようなベダンチックな読み方で、純粹戯曲の理論というものをつくりだすためにのみ読んでいたようである。こと劇に関する限り、変に理論家であったのは今考えてみるとおかしい。私の純粹戯曲理論から見ると、小説本など形式がだらだらして、なんだか汚らわしいように思われた。高等学校時代のことである。

高等学校は三高、山本修二先生、伊吹武彦先生など劇に関係のある先生がいて、一緒に脚本朗読会をやって変な声をだしていた。そういう関係から劇に志したのには無論違いないだろうけれど、しかし、中学校の三年生の時の作文に、股旅物の戯曲を書いて叱られたところを見ると、もともと好きだったのだろう。そういえば、たしか小学校の五年生の時にも対話風のB綴方を書いていた。彼女とか少女だとかいう言葉が飛び出したが、それを先生は「かのおんな」「かのおとめ」と訂正して読まれた。

戯曲ではチェーホフ、ルナル、ボルトリツシユ、ヴィルドラツク、岸田国士などが好きで、殆んどC心酔したが、しかし、同じクラスに白崎礼三という詩人がいて、これと仲が良く、下宿も同じにしていたくらいだったから、その感化でランボオやヴァレリーやマラルメを読み、その雰囲気から戯曲を書いた。従って実にDを書いていたようだ。十九から二十五まで七年の間に、四つ戯曲を書いた。そのうちの二つは、三高の五年生の時に、もう東京帝大へ行っている友人らとはじめた「海風」という同人雑誌に発表したのが、問題にされなかった。

大学へ行かず本郷でうろろしていた二十六の時、スタンダールの「赤と黒」を読み、いきなり小説を書きだした。スタイルはスタンダール、川端氏、里見氏、宇野氏、滝井氏から摂取した。その年二つの小説を書いて「海風」に発表したのが、二つ目の「雨」というのがやや認められ、翌年の「俗臭」が室生氏の推薦で芥川賞候補にあげられ、四作目の「放浪」は永井龍男氏の世話で「文学界」にのり、五作目の「夫婦善哉」が文芸推薦になった。

こんなことなれば、もっと早く小説を書いて置けばよかったと、現金に考えた。八年も劇を勉強して純粹戯曲論などに凝っている間に、小説を勉強して置けばよかったと、私は未だ読みもせぬ小説家の数を数えて、何か取りかえしのつかぬ気がした。けれど、八年の劇勉強はさすがに私の小説の上に影響を及ぼさなかったわけではない。

私の戯曲がものにならなかったのは純粹戯曲理論というものをまずつくって置いて、それにあてはめて書こうとしたことも一つの原因だと思った。で、私は小説の場合、あらかじめ理論をつくってそれをあてはめるといふようなことはしなかった。次に、永年科白で苦勞していい加減C科白に嫌気がさしていたので、小説では会話をすくなくした。なお、文楽で科白が地の文に融け合う美しさに陶

然としていたので会話をなるべく地の文の中に入れて、全体のスタイルを語り物の形式に近づけた。更に言えば、戯曲の一幕はたいいて三十分か一時間を克明にうつすので時間的にD窮屈極まる。そこで、小説では場面場面の描写を簡略にし、年代記風のものを書きたいと思ひ、既に二作目の「雨」でそれをやった。してみれば、私の小説は、すくなくともスタイルは、戯曲勉強から逆説的に生れたものであると言えらるだろう。私の小説の話術は、戯曲の科白のやりとりの呼吸から来ているE筈だ。

「夫婦善哉」を書くまでは、一人の作家ともF知己がなかった。原稿を見て貰ったことも教を仰いだこともない。間接に師と仰いだのは、前記の作家たち、ことにスタンダール、そしてそこから出ているアラン。なお、小林秀雄氏の文芸評論はランボオ論以来ひそかに熟読した。

西鶴を本当に読んだのは「夫婦善哉」を単行本にしてからである。私のスタイルが西鶴に似ている旨、その単行本を読んだある人に注意されて、かつて「雨」の形式で「一代男」をひそかに考えていたことはあるにせよ、意外かつ嬉しかった。その頃まだ「一代男」すら通読していなかった私は、あわてて西鶴を読みだし、スタンダールについてわが師と仰ぐべき作家であることを納得した。

私は「世間胸算用」の現代語訳を試み、昨年は病中ながら「西鶴新論」という本を書いた。西鶴の読み方は、故山口剛氏の著書より多くを得た。都新聞の書評で私のこの書をG酷評した人があるが、私はその人たちよりは西鶴を知っている積りである。西鶴とスタンダールが似ていることを最初に言ったのは私であるが、これは他日詳しく論ずる。ただ、ここでは、私の西鶴観は「西鶴はリアリストの眼を持っていたが、書く手はリアリストのそれではなかった」というテエマから出發していることを言つて置こう。これは即ち私にとつては、西鶴は大坂人であつたということの意味する。もつとも、こう言つたからとて、私は西鶴を狭義の大坂人という範疇の中にせよばめる積りはない。私にとつて、大坂人とは地理的なものを意味しない。スタンダールもアランも私には大坂人だ。すこし強引なようだが、私は大坂人というものをそのように広く解している。義理人情の世界、経済の世界が大坂ではない。元禄の大坂人がどんな風在世の中を考え、どんな風に生きたかを考えれば判ることである。まして、東京が考えているエンタツ、アチャコだけが大阪ではない。通俗作家が大坂をH歪めてしまったのである。

してみれば、私の文学修業は大阪勉強ということに外ならない。大阪は私の生れ故郷であり、そして私の師である。なお、ほかに、私には気になる作家がある。正宗白鳥氏、内田百閒氏。気になる余り、暇さえあれば読んでいる。川端氏、太宰氏の作品のうらにあるものは掴めるが、ああ、やつてるなと思うが、もう白鳥、百閒となると、気味がわるくてならない。怖い作家だ、巧いなあと思う作家は武田麟太郎氏、しかもこの人の巧さはどぎつくない。この人の帰還がたのしみである。この人が帰れば、上京して会いたいと思う。その作家魂をI私淑し、尊敬しながら、なんだか会うのが怖い作家は、室生氏である。会う機会を得た作家は、会つた順に言つと、藤

沢、武田、久米、片岡、滝井、里見の諸氏。最近井上友一郎氏に会い、その大阪訛をきいて、嬉しかった。

小説の勉強をはじめてからまだ四年くらいしか経たない。わが文学修業はこれからである。健康が許せば、西鶴が小説を書いた歳まで生きられるだろう。まだ十年ある。文学修業はそれからだと思つて。私は最悪の健康状態でよく今日まで生きて来られたと思つて。文学が恐らく私の生命を救つて来たのだろう。常に酷評されながら「何糞と思つて書いている。それで表面はぴんぴんしている。そのうち、戯曲も書くか」と思う。最近、友人が「君は本職をもう捨てたのか」といった。小説は私の副職だといふのである。「いや、今に戯曲も書くよ」と答えたが、その実、素人劇の脚本を昨年頼まれて書き演出もした。「満更でもないと思つた。いろいろ楽みで、なかなか死ねないと思つた。」

(織田作之助『わが文学修業』)

問一. 傍線部A～Jの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二. 傍線部②の「綴方」を言い換えるとすれば何か、次の中から選び、答えなさい。

- ・習字
- ・絵画
- ・日記
- ・作文

問三. 本文中 ㊦ に入る適当なことを次の中から選び、答えなさい。

- ・理論的な戯曲
- ・詩的な戯曲
- ・へんてこな戯曲

問四. 傍線部④の「私淑」について

- (1) 読み方をひらがなで書きなさい。
- (2) 意味として適当と思われるものを次の中から選び、記号で答えなさい。
- ア 直接に教えは受けないが、ひそかにその人を師と考へて尊敬し、模範として学ぶこと。
- イ 他人の作品などを一時的に自分のものとさせてもらうこと。借りること。

問五. この文章を書いている時点で、筆者はおよそ何歳かまた、西鶴が小説を書いた歳は何歳か答えなさい。

問六. この文章の中で、次にあげる人物は、劇作家、小説家、詩人のいずれとして取り上げられているか選び、記号(劇作家Ⅱア、小説家Ⅱイ、詩人Ⅱウ)で答えなさい。

- ① スタンダール
- ② ランボオ
- ③ 内田百閒
- ④ 岸田国士
- ⑤ ドストイェフスキイ

【2】 次のカタカナの部分の漢字で答えなさい。

- ① 橋をカける
- ② 服をカける
- ③ 漢字がカける
- ④ 音楽カンショウ
- ⑤ 内政カンショウ

【3】 次の四字熟語には一文字誤りがあります。誤つた字に○をつけ、右側に正しい字を書きなさい。

- ① 花蝶風月
- ② 自我自賛
- ③ 才飾兼備
- ④ 大義名文
- ⑤ 進出鬼没

【4】 ①～⑤の意味になるように、() 内に手や足など身体の名称を入れ、慣用句を完成させなさい。

- ① 対等の位置で張り合う () () を並べる
- ② 出席する () () を出す
- ③ 出費が予算を超える () () が出る
- ④ 自慢する () () にかける
- ⑤ 非常に驚き感心する () () を巻く

【5】 次の①～⑤の外来語の意味を解答群から選び、記号で答えなさい。

- ① エキスパート
- ② オブザーバー
- ③ スパン
- ④ テリトリー
- ⑤ ネガティブ

(解答群)

- ア 期間
- イ 回転
- ウ 観察者
- エ 否定的
- オ 楽観主義者
- カ 熟達者
- キ なわばり

【6】 次の有名な俳句の() に入る語を解答群から選び、答えなさい。

- ① 秋深き () は何をする人ぞ
- ② 朝顔に () とられてもらひ水
- ③ () () や月は東に日は西に
- ④ 目には () () 山ほととぎすはつかつお
- ⑤ 古池や () () 飛び込む水のをと

(解答群)

- ・菜の花
- ・五月雨
- ・つるべ
- ・となり
- ・蛙
- ・雀
- ・青葉
- ・月
- ・明日